

令和7年度 第2回 第6期香美市まちづくり委員会

日時：令和7年10月29日（水）18時30分～20時30分

場所：香美市立役所3階会議室

出席者：まちづくり委員11名 事務局(企画財政課)3名

欠席者：5名

1. 議題

① 香美市振興計画について

資料：第2回まちづくり委員会資料

【資料1】第2次振興計画後期基本計画（抜粋）

【資料2】第8次実施計画（R6～R8）

○要旨

- ・香美市振興計画の概要について、計画の構成や、現行の内容について説明。
- ・基本理念と将来都市像の違いについて理解するとともに、それぞれの関係性について説明

② 「10年後、香美市がどうなっていたらうれしい？」をテーマに意見交換

<各委員の発言まとめ>

○重山委員

【健康・福祉】

- ・病院の選択の自由が効くような街にしたいです。小児科や皮膚科は香美市から出ないと受診ができない現状があります。また、車の免許を返納した高齢者の方が、行きたい時に病院に行けないという問題もあります。そのため、交通の便が良いところに複合的な医療ビルがあればいいと思います。

【産業・観光】

- ・家族の買い物が市外でしか完結できないという現状があります。複合的な商業施設があれば、雇用が増え、香美市内で住んで働いて、買い物もしたいという人も増え、良い街になるのではないかと思います。

【教育・文化】

- ・子供の習い事の選択肢がない、中学校に上がって部活動の選択肢がないという現状があります。多様な選択肢があり、やりたいことをやれる、子供の選択に制限がない街が望ましいと思います。

【その他】

- ・南国市や高知市に頼らざるを得ない状況からの脱却ができたらいいなど強く思います。例えば、仕事が終わってすぐに買い物に行けない、南国市まで行かないといけないといった現状があります。車がなくても暮らせる街が良いです。

○熊瀬委員

【その他】

・香北町や物部町の交通が不便な地域の公共交通の見直しをしてほしいです。買い物に行きたくても行けないという状況があります。例えば、週に1回でもお買い物バスが運行するとか、そういったサービスがあれば、生活は豊かになると思います。

・香美市立図書館「かみ～る」がありますが、香北町や物部町の人からすると行きづらいです。車を運転できるうちは良いのですが、できない人にとっては不便です。JRバスで山田駅まで行き、そこから市バスやぐるりんバスを乗り継いで行く必要がありますが、その本数や時間が限られています。せっかく良い施設があるのだから、そこにつながる公共交通の整備が必要です。

【教育・文化】

・香北町にある図書館をさらに充実させ、交流の拠点とすることも良いと考えます。今ある図書館は狭いので、香北町で図書館に関心を持つ人が多い現状を踏まえて、交流の拠点となればいいなと思います。福祉などとも絡めながら検討できます。

○横山委員

【健康・福祉】

・認知症の高齢者が増え、一人暮らしで判断能力が低い方の支援が多く求められています。10年後も増えることが予想されるので、認知症や特性を持った方を理解し、声かけや自然に支え合うことができる街にしたいです。また、ICTを活用した見守りや買い物支援も必要だと考えます。

【教育・文化】

・香美市には山田太鼓や物部の伝統など素晴らしい伝統があります。これらを若い世代に受け継いでいくことが大切です。香北町でも習い事を教えてほしい、高齢者や伝統を知りたいという声があるので、そういったことを業務の中でつなげていきたいです。

・高知工科大学と地域が連携を深め、学生の力や知恵、マンパワーを活用することで、香美市のプラスにつながると思います。

【産業・観光】

・あんばん関連で香美市に来てくれる方が多く、「良い街で良い人がたくさんいる」という声を聞きます。その一方で、泊まるところがないという声も多く聞かれるため、県外から来た方が楽しめるような、泊まれる場所を作ることは課題の一つだと考えます。

○宮内委員

【産業・観光】【環境・防災】

- ・香美市にはニラ、ユズ、ヤッコネギといった特産品があることから、農林業に携わる方々への支援が整っている街を目指したいです。また、農林業への支援を通じて、農地や山林の在り方、物部川流域の維持に波及していくことで、大雨による被害等の防災にも地域全体で取り組むことが理想です。

○小原委員

【環境・防災】

- ・耕作放棄地がなくなり、緑豊かなまちになると良い

【産業・観光】

- ・JR 土佐山田町駅を充実させることで、観光客の増加に繋げて商店街の活性化に繋げができるとよい。また、デイサービスが利用できない状況があり、そのような方が集まれる憩いの場のような商店（手芸・小物）があるとよい。

○田尻委員

【環境・防災】

- ・南海トラフ地震に向けて仮設住宅を建設する場所の確保、飲み水・電気の確保等、一次的・二次的な対策ができているまちとして PR すれば移住者が増えていくのは。

- ・森林の状況を見ると、山崩れが増えてきているので、人工林が多い地域での間伐推進は避けられません。間伐後には下草が生えて山の地盤が強くなるので、その後は放棄しても良いと思います。商業的には難しいですが、防災のために間伐を進めることは必要です。

【産業・観光】

- ・香美市には自然的な観光資源が多くあります。土佐山田町、香北町、物部町など各地にありますが、これらをどうつなげていくかが課題です。道が狭いことや交通手段が限られていることが問題なので、これらの整備が必要です。道の整備やバス路線の拡充ができれば、観光客も呼び込めると同時に市民も利用でき、観光客が増えれば経済効果も生まれ、バス運営も可能になると思います。

【教育・文化】

- ・子供の教育だけでなく、大人の再教育ができればよいと考えます。成人になってからでも、小学校や中学校時代の勉強を学び直したいと思った時に、学べる施設や機会があれば良いです。図書館や公民館などで年間を通して勉強できる機会があると良いと考えます。

【その他】

- ・香南市や南国市と連携する形が良いと思います。香美市、南国市、香南市を連携させるバス路線などを設け、それぞれの良い施設のアクセスを改善できれば、市外からの観光客も呼び込め、経済効果も期待できます。観光客が増えれば、街の活性化にもつながると考えます。
- ・ICT サービスを駆使して、各分野において総合的に住民サービスの向上を図る。

○藤原（励）委員

【環境・防災】

- ・空き家が増えており、地震などで倒壊すれば危険です。災害時の拠点として、空き家を仮設住宅として活用したり、新しい空き家として整備したりできれば良いと思います。

【健康・福祉】

- ・高知の人はあまり歩かない傾向にあります。特に香北町や物部町では歩く場所が少ないため、集落内でコミュニティスポットを作り、そこまで歩いて行くような習慣を促せば良いと思います。
- ・郷土料理について、高齢化が進む中で、生産者が減少しているので、次世代に技術や文化をつなげていくために、コミュニティを作り、そこで若い人が郷土料理の作成を通じて農業に関わる時間を増やせれば、耕作放棄地の減少や、運動にもなるので、そのような人が増えることを望んでいます。

【教育・文化】

- ・高知工科大学の出身者の中には、学生時代は地域との関わりが少なく、今になってもっと関わっておけばよかったと感じる人や、香美市に戻ってきたり、遊びに来たりして楽しんでいるかたもいます。学生時代から地域と関わることで、将来的に香美市に戻って子育てをする人が増えるような街にしたいです。
- ・小学校から大学まであることや、毎月 20 日を教育の日として教育に力をいれているまちとして、子育て世帯に PR していくのはどうか。
- ・香北町にアパートなどの賃貸物件が不足しています。香北町は人気があるのに物件を提供できていないので、一般の人や大宮小学校を目当てに来るファミリー世帯が住めるアパートがあれば良いと思います。

【その他】

- ・香美市の強みは空港から近いことなので、空港からの直通タクシーのようなサービスを山田町まで導入できれば、大きな強みになると思います。現状はレンタカーしか選択肢がないため、アクセスの改善が必要です。

○藤原（文）委員

【健康・福祉】

- ・物部町は高齢化が進んでおり、10年後には住民の8割が60歳以上になることから高齢者に優しい街になることを望みます。

○石川委員

【環境・防災】

- ・補助金が少なくなっています。各地区への補助金拡充が必要と考えます。
- ・防災訓練については、先日香北町で行われた防災訓練の周知が遅く、地域住民への案内が不十分でした。訓練の内容も、地域全体での触れ合いの場となるような、広範囲な訓練を計画してほしいです。そうすることで、認知症予防や地域交流にもつながると思います。

【産業・観光】

- ・交通手段に関して、物部町には市バスがありますが、利用率が低いです。美良布まではアンパンマンバスで利用客が多いですが、それより奥の物部町は観光が充実していないため利用者が少ないです。市バスやデマンドタクシーの利用方法が市民に知られていない現状があることから、利用方法の周知を徹底し、市民が移動手段として活用できるようにしましょう。
- ・香北町には特産品や地域でのイベントがありますが、市民がその内容を十分に知らないことが多いです。口コミや広報活動を強化し、市民から広げていくことも大事と考えます。
- ・地元の人が利用していたホテルが高額になり利用しづらくなっています。施設が観光客向けに偏り、市民の生活が無視されていると感じます。バカラレアのような教育施設が充実している地域に、移住者を誘致していますが、地元住民が利用できる交流の場が不足しています。人を誘致するだけでなく、地元住民も大切にできる施設が必要です。また、移住者と地元住民との交流ができる施設も必要と考えます。

○濱崎委員

【健康・福祉】

- ・人口が増え、活気付いている街は、子育て支援策に力を入れています。親が安心して子供を預けられる、福祉施設が充実していることが不可欠です。子供たちが安心して成長できる子育て支援策の充実が求められます。
- ・最近、子供たちの悩みが多様化しており、不登校など様々な形で苦しんでいます。福祉サービスは充実していますが、どこに相談すれば良いか分からぬという問題があります。総合窓口を設け、コーディネーターを配置することで、1箇所で全ての

相談が完結するような体制が必要です。

【環境・防災】

・南海トラフ地震を想定すると、小中学校の体育館が一時避難場所になりますが、空調設備がない現状では、夏場の避難が困難です。10年後には全ての体育館に空調設備が設置されることが必要と考えます。

・ゴミ問題についても、最近ゴミステーションが汚い状態の場所が多く、草が生い茂った空き家が増えています。環境整備を徹底し、美しい街にすることで、住民の居住意欲や、市外からの訪問者の印象も向上すると思います。

【産業・観光】

・香美市には様々な産品がありますが、1箇所で全てがそろう総合施設があれば良いと思います。道の駅もありますが、それ以上に、産品の販売、食事、観光情報などが集約された施設が必要です。

・物部町出身者として、かつてはダム湖で遊覧船や屋形船が運行し、観光資源として活用されていました。ダムを生かした観光は他の地域でも行われており、香美市でもダムを活かした観光開発を進めてみては。

【教育・文化】

・香美市は文化を掲げている割に、総合文化施設がありません。図書館はできましたが、中央公民館は老朽化が進んでおります。南国市、土佐市、四万十市など、他の自治体では総合的な文化施設が整備されています。秋田駅の近くにある総合施設のように、福祉と文化が一体となった施設があれば、全ての窓口が1箇所で完結する利便性が生まれると考えます。

○中村委員

【その他】

・香美市の問題点が10年後に解決されていることを願う、という着眼点が多いと感じています。将来の都市像を語り、共通理念を持つことが目的だと思います。

・10年前から同じことを言っていますが、私のビジョンは「良質な住宅が立ち並ぶ最強のベットタウン香美市」です。マンパワーと税収が限定的な状況では、香美市が実現可能なビジョンとしてこれしかないと思っています。民間の不動産業者が開発を進め、人口を維持していることが香美市の誇るべき強みです。良質な住宅供給に市がさらに力を入れれば、人口はまだ増やせるでしょう。

【環境・防災】

・香美市の住宅購入者は防災意識が高く、津波の心配がない場所を重視していますが、街道が狭く火事の延焼リスクがあるなどの問題で土地購入を断念する人がいます。区画整理などを積極的に行い、ガイドライン整備を進めることで、良質な住宅

地の供給が可能になります。これが解決すれば、税収も上がり、人もお金も集まるはずです。

【教育・文化】

・環境整備に関連して、転入者が抱く不満として教育施設が挙げられます。香美市は義務教育が市内で完結しないことが多く、生徒の多くが高知市へ通っています。10年での実現は難しいかもしれません、せめて義務教育は市内で完結できるような教育施設の整備が必要と考えます。通勤時間が長く、子供の時間が無駄になっている現状を改善したいと強く思います。